（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス 八尾キッズ

公表日　　令和7年　5月　1日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		活動内容で使う物だけフロアに出すようにして充分なスペースの確保に努めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	9	1	常にマンツーマンの対応がしやすい体制を作り、安全を確保している。	今後も適宜スタッフの増員を継続し、さらに安心安全な体制を継続していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		出入り口のスロープや、取り外し可能な手すり等を配置するなどして設備面の配慮をしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		毎日の清掃と消毒作業、換気等を欠かさず、清潔な空間を維持している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	パーテーションを活用して簡易な個別の部屋を作ったり、着替え用に個室を使える環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		月1回の職員会議を主として個々の利用者様の現状や目標等を共有しながら進めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	保護者向け評価表の配布と実施にご協力いただき、結果をもとに業務改善に取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		状況に応じて各スタッフと個別の聞き取りや面談の機会を設けたり、職員会議を通じて意見を集めることで業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	1	外部機関に書類チェックや業務の評価等のサポートを依頼し、指摘があった場合は即改善している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		各スタッフに新人研修の実施、その後は能力や特性に応じて資格取得や研修など各種の取り組みに参加できる環境にしている。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		児童発達支援管理責任者が作成した支援プログラムの原案を元に社員や児童指導員等を中心にチームでその是非を検討し、仕上げたものを公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		日々のモニタリング(支援記録)を元に定期面談を実施した上でアセスメントシートを作成し、課題を抽出した上で個別支援計画の作成に繋げている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		児童発達支援管理責任者が作成した原案を元にサービス担当者会議を行い、児童指導員など他の職種の見解も取り入れて完成させている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	10		個別支援計画の内容に沿って支援記録用紙を作成し、毎日の支援を記録することで全職員が計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	5領域の支援に沿って細かい項目に分かれた様式のアセスメントシートを作成しており、その作成の前段階に毎日の支援記録を使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		利用者様一人ひとりの発達状況や家庭状況等に応じて、ガイドラインにおける各支援項目から内容を設定し、全スタッフが内容に沿った支援ができる環境になっている。	

な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		児童発達支援管理責任者を中心に、児童指導員などの職種も交えてミーティングを行い、活動プログラムの立案をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		活動内容が画一的にならないよう配慮しながら日々新しい活動メニューを追加・変更しながら実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		自由時間には創作・おもちゃを使った自由遊びなどの個別活動をし、一日のタイムスケジュールの中に集団活動の時間を設けている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		日々の出勤時に引き継ぎを行い情報共有することに加え、各自その日の予定を確認してから支援を開始することにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	10		支援終了後の報告の時間を取り、記録を残すようにして全職員が必要に応じた情報共有ができるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		【個別支援計画に沿った支援記録】という書類を毎日全利用者様分、記入作成している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		モニタリングとアセスメントを随時行い、支援等の改善に努めている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	10		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、 余暇の提供の4つの基本活動を組み合わせて日々の支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10		普段の声掛けから自己選択を重視しており、利用児童の意向を尊重した支援ができるよう全スタッフ統一で心がけている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		該当の利用者様の状況に応じた適任者が毎回参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		協力医療機関や役所、各支援学校等と連携しながら常に適切な支援を検討し、実施している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		親御様を通して学校行事予定表をいただくようにしており、学校とのやり取りは必要に応じていつでも連絡を取り合える関係を作っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	引継ぎの際には各事業所の担当者同士で連携し、情報連携やケアの説明、課題等の説明を受けられるようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10		卒業前に担当者会議に参加し、情報連携するようにしている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	8	2	地域の児童発達支援センターと適宜連携を取り、利用者様の適切かつより良い福祉利用のため情報交換等している。	研修等の機会は少ないため、今後もより良い連携の取り方を検討していきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	9		今後もさまざまな子供様との交流の機会を増やせるよう検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10		なるべく毎回適任者が参加するようにしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		常に親御様とのコミュニケーションを欠かさないように留意し、情報交換や意見交換を行って支援に活かしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	1	必要な方には自宅訪問して時間を取るなどして個別にペアレント・トレーニング等の家族支援をしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		利用契約の際にすべて書類と共に説明している。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		定期的な面談(懇談会)を通じて保護者様の意向をくみ取り、日々の支援の中で利用児の意向も汲み取るようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	10		定期的な面談(懇談会)を通じて保護者様の同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		定期的な面談(懇談会)を通じて保護者様からの相談に応じ、適宜助言等の対応をさせていただいている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	9		今後ともより良い支援方法を検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		相談や申入れがあった際には迅速かつ的確な対応ができる体制を整備しており、利用者様にも周知している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10		HPの活用と、年4回「プランニング富士しんぶん」という機関紙を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		利用契約の際にすべて書類と共に説明している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		各ご家庭に合わせて合理的配慮をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	9		今後とも検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		誰でも見れるようマニュアル等を作成・管理しており、年間計画に準じて年2回の避難訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		BCPを作成の上、年間計画や安全計画に準じて定期的に必要な訓練をしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		事前に情報を伺い、必要に応じて発作対応マニュアル等を作成しながら情報管理に努めている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	契約時に事前にお聞きし、おやつの提供時などに徹底した配慮をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		安全計画の準じて完全管理が行き届いた支援を心がけている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	10		事業所内に掲示することで周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハット・事故報告書を事業所内で共有し、再発防止に努めている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		毎年虐待防止研修を実施し、適切に対応している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		10	身体拘束を必要とするケースがないので実施していない。	